



庶民の会
林田 勉 議員

問 実現するのか 復刻版「一号機関車」

Q 一号機関車の復刻構想の内容は。

A 明治五年に新橋―横浜間を走った国内第一号の蒸気機関車で、明治四十四年に国鉄から島原鉄道に払い下げられ、島原半島で活躍していた。昭和の時代に入り、国鉄から博物館充実のため返還を求められ、当時の島鉄社長であり、後の初代島原市長となる植木元太郎氏が「惜別感無量」と揮毫したプレートを車体に取り付け、諫早駅で盛大な送別式を行った。こうしたストーリーを踏まえ、島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みの一つとして、一号機関車をモチーフにした観光列車を走らせ、交流人口の拡大につなげようとするものである。

Q 走行開始はいつ頃なのか。また製作には幾らかかるのか。

A 九州新幹線西九州ルートの開業までには実現させ、諫早から多くの方が島原半島に来てもらえるようにしたい。製作費については、他社の事例を参考に、当時の面影を残したディーゼル機関車一両、客車四両で約四億五千万円かかるのではないかと島鉄では試算している。

問 古川市政について

Q 古川市政の三年半を振り返り、産業や観光の振興、高齢者、働く世代、子育て支援などさまざまな施策を実施されてきたと思うが、市役所の古い体質や市職員の意識改革、能力に応じた人事の実行が重要だと考えるがどうか。

A 職員から市長、市長から職員までの情報伝達の重要性を感じている。また、やる気のある職員にやりがいのある場を与えることが大切だと思っている。

【その他の質問項目】
○島原の子供の貧困状況は



眉山クラブ
松井 大助 議員

問 島原城に関する諸問題

Q 平成二十四年六月の大雨で崩落した西側と北側の石垣について、西側は復旧工事が完了したが、北側はどのような状況なのか。

A 北側については三段に積まれた石垣の中段と下段が崩れ、この部分を布団かごと盛土により崩落拡大を防いでいる。県文化財に指定されているので、今後の復旧等は県と協議していく。

Q お堀内の菖蒲園の維持管理には年間幾らの経費がかかっているのか。また廃止に向けての今後の利用計画は。

A 年間約四百五十万円かかっている。廃園後も除草や水路清掃などが必要となるが、お城の景観を損わないような活用方法を地域の方や関係団体等と相談しながら検討していきたい。

問 放課後子ども教室 推進事業について

Q 平成二十年から始まった子供たちが古典や論語を素読する「稽古館」、「寺子屋・武家屋敷」は現在も行っているのか。

A 現在は平日の放課後に各地区公民館で行う放課後子ども学習室、夏休み期間中に各小・中学校で行うスクールキッズ事業を実施しているが、稽古館、寺子屋・武家屋敷事業については、今年度から場所を森岳公民館に移し、夏休みの実施に向けて、現在参加者を募集している。

Q IT技術が進んだ現代の子供たちにとって、このような事業は古典や論語の学習だけではなく、礼儀や道徳心を身につけるためには大変大事なことだと思いがどうか。

A どんなに科学技術が進んでも、人を育てる教育においては、やはり人が携わらなければいけないと思っている。

【その他の質問項目】
○市民体育祭について